

(2) 留意事項

- 強い揺れを感じたら、**まず、身を守る行動**をしましょう。その後、火の始末をしましょう。
- 震源が陸地に近いと、**緊急地震速報や津波警報が間に合わない**ことがあります。「強い揺れ」を感じたら、警報などを待たずに、すぐに高台に避難しましょう。
- 津波の高さが「**巨大**」と発表されたら、東日本大震災のような巨大な津波が来るおそれがあります。すぐに、より高い場所に避難しましょう。
- 津波は、地形によって、陸地にあがった時の高さが変わります。**予想以上に高くなる**場合があります。「ここなら安心」と思わず、より高い場所をめざして避難しましょう。
- 津波は長い時間**くり返し襲ってきます**。津波警報が解除されるまでは、家には戻らず、避難を続けましょう。



車で避難する場合の留意点

- 避難先方向への一方通行とし、逆走を禁止します。
- 道路が通れない場合や渋滞もあります。そのときは、路肩に車を乗り捨て、徒歩で避難しましょう。
- 車での避難で渋滞等が起こらないように、自治会・町内会単位で、避難先や避難の仕方（徒歩と車に分けるなど）を決めておきましょう。



橋を渡って避難する場合の留意点

- 気象庁の発表で、津波が来るまでに時間があると分かった場合は、**美国川の橋を渡って高台へ避難する方が早い**地区もあります。
- カタカタという小さな揺れが短く、いきなり激しく揺れた時は、すぐに津波がきます。その時に橋を渡るのは危険です。

5 大雨、土砂災害からの避難

- 土砂災害は「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」「土石流」「地すべり」などの種類があります。
- 発生する前に**【前兆（発生のサイン）】**があります。**気づいたら、すぐに避難しましょう。**

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）



急な斜面が、大雨や地震などで崩れるものです。一気に土砂が崩れ落ちてくるため、発生した場合は、逃げるのが非常に困難です。

前兆

- がけからパラパラと小石が落ちてくる
- がけに割れ目ができる
- がけから水が湧き出す

土石流



山腹、川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などで、一気に下流へと押し流されるものです。時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させます。

前兆

- 山鳴りがする
- 腐った土の匂いがする
- 川の流れて濁りや流木が混じる
- 雨が降り続けているのに川の水が減る

地すべり



山が、地下水の影響と重力によってゆっくりとすべるものです。一般的に移動する土砂の量が多いため、被害が大きくなります。

前兆

- 地面がひび割れる
- 陥没や隆起がある
- 井戸の水が濁る
- 斜面から（いつもはない）水が噴き出す